

水産物市場を観光拠点に、境港は「種まき」の時期

鳥取県境港市の境漁港は日本海側の水産拠点で、2020年の水揚げ量は全国で5位。松葉ガニ（雄のズワイガニ）やベニズワイガニなどカニの水揚げ量は日本一、夏場のクロマグロ漁でも有名だが、水揚げの中心はイワシやサバなど巻き網漁で取れる大衆魚だ。

「ゲゲゲの鬼太郎」で有名な漫画家・水木しげるさんの出身地でもあり、市のキャッチフレーズは「さかなと鬼太郎のまち」。177体の妖怪ブロンズ像が並ぶ水木しげるロードは1993年の誕生以来の累計入り込み客数が2020年12月に4千万人を突破。鳥取砂丘と並ぶ鳥取県の代表的観光地となった。

新型コロナウイルスの感染者が少ない鳥取県だが、観光客の激減は境港にも暗い影を落とす。旅館や飲食店の営業自粛に伴い高級魚の価格は低迷し、市内の米子鬼太郎空港が航路を結んでいたソウル、香港、上海への定期便も運休が続く。水木ロードの人通りも格段に少なくなった。

ただ、アフターコロナを見据えて観光素材を磨き上げる動きがないわけではない。境漁港の市場は現在、高度衛生管理型市場に生まれ変わる工事中。中核施設の2号上屋には市場見学者が競りの見学や、展示水槽で魚の生態学習ができる機能を新たに持たせる。

境港市観光協会との意見交換では、来場者が描いた絵が泳ぐプロジェクター水槽、水木ロードとの間で観光客を運ぶベロタクシーといった興味深いアイデアも続出。どこまで具現化するのか、楽しみだ。

境漁港では以前から訪日外国人客の市場見学ツアーが大人気だった。迫力満点のマグロの水揚げ、トラックの荷台にサバやアジを網で下ろす「スケール売り」などの光景は、十分に魅力的だ。見学ツアーの再開までに、さらに市場での展示内容を充実させようと頭をひねる市場関係者。境港はまさに、今が「種まき」の時期だと言えよう。

新日本海新聞社 境港支社長 井上昌之



境港のベニズワイガニ



高度衛生管理型市場